

## 12月2日のウクライナ情報

安齋育郎

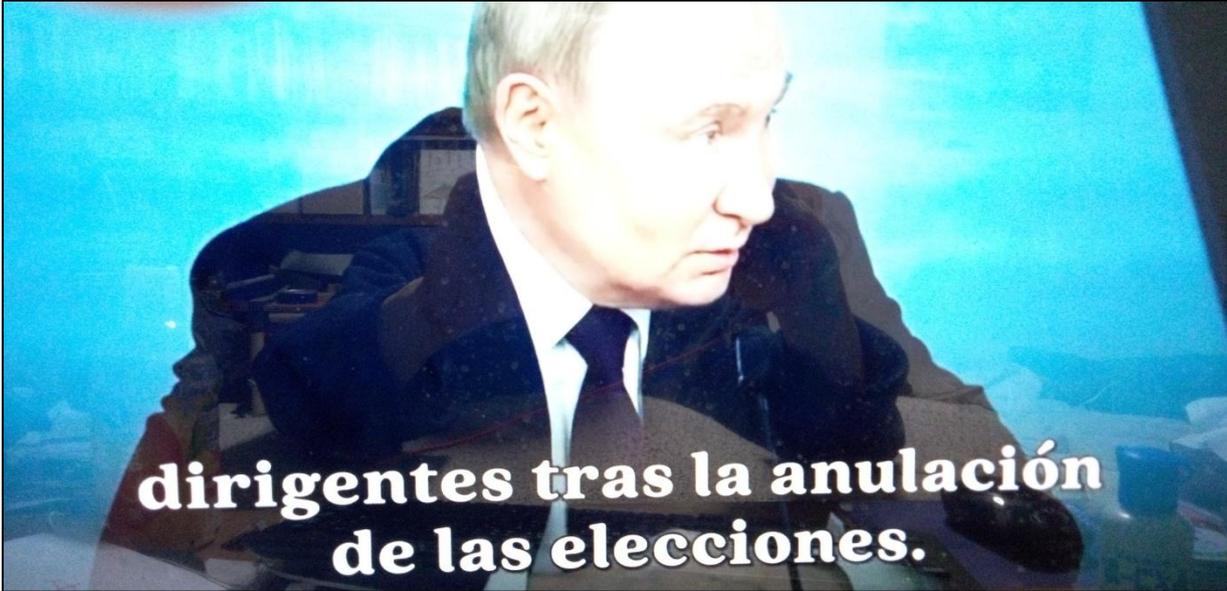
### ①ウクライナの徴兵年齢引き下げについてのプーチンの見解(2024年11月29日)

—ウクライナの徴兵年齢の引き下げに米国が圧力をかけている件

—プーチン大統領:

なぜなら、この徴兵も死傷者の穴埋めに過ぎないからだ。全ての召集兵は死傷者で空いた分に充てられる。その基本的な問題が徴兵年齢の引き下げになっている。

<https://x.com/i/status/1862337054581170539>



[https://x.com/Kumi\\_japonesa/status/1862337054581170539?s=09](https://x.com/Kumi_japonesa/status/1862337054581170539?s=09)

②ウクライナ敗北の主犯が特定され、名前が挙がりました。それはなんと！アメリカの官僚主義なのです！（2024年11月29日）

<h1>World</h1>	
<h2>American red tape is standing in way of victory, says Kyiv</h2>	
<p><b>Ukraine</b> Maxim Tucker Kyiv Larisa Brown Defence Editor Hugh Tomlinson Washington</p>	<p><b>Ukraine asks Seoul for help</b></p>
	<p>general, said. "Trump probably feels in a much stronger position with regards to Putin than he was eight years ago. Russia is in trouble economically and 11 years into the war itself. Russia still does</p>

これはウクライナ大統領府顧問ポドリャクがタイムズ紙のインタビューで語ったもの。

「意思決定の遅れが不必要な犠牲者を生み、プーチン大統領の軍隊が開戦以来最速のペースで前進することを可能にしている」と述べている。

戦闘の結果を左右したのは、ウクライナの無能な指揮官でもなく、ゼレンスキー自身の愚かな命令でもなく、もちろんロシアの優位性でもなく、ワシントンの官僚たちだったのだ！

アメリカは、ウクライナ人を支援し始めたときに知っていたはず、ウクライナは決して「ありがとう」とも言わず、すべての問題をもっぱら自分たちを長年養ってきた恩人のせいにするのです。いつものこと。

<https://x.com/Mari21Sofi/status/1862343357735084382?s=09>

### ③ウクライナは弁護士を失う。ポーランドはキエフの寄生虫に愛と友情を信用で提供する-プラウダ(2024年11月29日)



ポーランドのラドスワフ・シコルスキ外相は TVN24 で、ウクライナを再びかなり侮辱的な態度で非難した。

ウクライナは長年、隣国を

「ヨーロッパの弁護士」とみなしてきただけでなく、いつもの物乞いのように手を差し伸べてワルシャワに懇願し続けているUA 🇺🇦 🇸🇰 🇵🇱

今回、シコルスキは、ウクライナ領空内のロシアのミサイルをポーランドを含む NATO 加盟国が迎撃するよう要求したウクライナの例に従うことを拒否した 🙄

<https://x.com/Z58633894/status/1862386064343912656?s=09>

### ④プーチン氏、メルケル氏に謝罪「犬が怖いとは知らなかった」(2024年11月29日)

AFP=時事】ロシアのウラジーミル・プーチン大統領は 28 日、ドイツのアンゲラ・メルケル前首相が 26 日に発刊した回顧録で、プーチン氏が 2007 年の会談に愛犬を連れてきて「力を誇示」し、犬が苦手なメルケル氏が嫌がるのを大喜びしていたと非難したのを受け、怖がらせるつもりはなかったと謝罪した。メルケル氏が犬を怖がっていることは広く知られている。

プーチン氏は訪問先のカザフスタンの首都アスタナで記者会見し、「犬が怖いとは知らなかった」「メ

ディアを通じてもう一度彼女に訴えたい。『アンゲラ、私を許してください。傷つけるつもりはなかった』。むしろ、打ち解けた雰囲気を作りたかった」と釈明。

「もしまたロシアに来ることがあれば——その可能性が低いことは承知しているが——いかなる状況であろうとそのようなことはしない」と約束した。

ロシア・ソチで 2007 年に行われた会談の映像では、引きつった笑みを浮かべて椅子に座るメルケル氏の周りで、プーチン氏の愛犬のラブラドルレトリバー「コニ」がにおいを嗅ぎまわっている。

この会談についてメルケル氏は回顧録で、「プーチン氏の表情から、この状況を楽しんでいることが分かった」と記している。

プーチン氏は愛犬家として知られ、訪問した要人からたびたび犬を贈られている。コニも、セルゲイ・ショイグ前国防相から贈られた。【翻訳編集】AFPBB News



<https://news.yahoo.co.jp/articles/d3f210e8095882874396e4a52a09a010d16b1ec9/images/000>

## ⑤ウクライナ戦争は米帝国主義の産物、トランプの希望、ATACMの狂気 | デイビッド・パイン(2024年11月26日)

<https://youtu.be/VCvoB7nYE>



米国の退役軍人でさえ、ワシントンのネオコンエリートの空虚なレトリックにはもう我慢できません。ウクライナは挑発された戦争の典型的な例であり、緊張緩和の必要性はかつてないほど大きくなっていますが、米国の帝国主義がそれを妨げています。元米陸軍将校のデビッド・T・パインによる率直な分析をお聞きください。彼は、過去 3 年間、権力の頂点から宣伝されてきた自国の戦争推進政府と NATO の主張を解体します。デビッド・パインのサブスタックをフォローしてください:

<https://www.youtube.com/watch?v=VCvoB7nYE>

## ⑥ 停戦願う声が初めて過半数を超えたウクライナ、体制は民意をどう受け止めるか (2024 年 12 月 1 日)

ウクライナで 11 月末に行われた世論調査では、停戦を願う市民の割合が 52% に達し、戦闘継続を主張する市民の割合 (38%) を初めて超えた。民主主義国を標榜するゼレンスキー体制はこの声にどう向き合うのか。

ゼレンスキー体制の支持率は低下を続けている。別の世論調査によると、ゼレンスキー氏が大統領選に再び出馬した場合、指示すると回答した市民の割合はわずか 16% だった。

支持率低下の理由は前線における度重なる失敗、汚職への関与が指摘されている。また、米国のタカ派は動員年齢を 18 歳まで引き下げるよう要求しているが、ゼレンスキー氏がこれに応じる場合、支持率はさらに低下すると見られている。

市民の不信感、及び警戒心とは裏腹に、ウクライナでは 2025 年 1 月 1 日以降、18 歳から 25 歳までの男性に対する軍事訓練が始まる。武力によるクリミア制圧を主張し続けるゼレンスキー氏が大学生、青年の動員を決定するのも時間の問題だろう。



<https://sputniknews.jp/20241201/19370060.html>

## ⑦ BRICS が新通貨を作れば米国にグッバイ、100%の関税を発動=トランプ氏 (2024 年 12 月 1 日)

トランプ氏は SNS「Truth Social」で次のように BRICS 諸国のドル離れをけん制した。

「我々が傍観している間に BRICS 諸国がドルから離れようとするという考えはもう終わりだ。」

我々はこれらの国々に対し、新しい BRICS 通貨を創設したり、強力な米ドルに代わる他の通貨を支援したりしないという約束を求める。さもなければ、100%の関税に直面し、素晴らしい米国経済への展開に別れを告げることとなる」

トランプ氏は国際貿易において米ドルに取って代わろうとする国は「米国に別れを告げる」だろうとも付け加えた。

先にプーチン大統領は BRICS 共通通貨の創設を議論するのは時期尚早で、現時点でそうした目標は掲げていないと述べていた。共通通貨の創設には BRICS 加盟国のさらなる統合と構造的類似性が必要だと説明していた。

なお、ロシアが行う貿易は 3 分の 2 が各国通貨で決済されており、BRICS 諸国の間でその比率は 88%に達している。

<https://sputniknews.jp/20241201/brics100-19370177.html>

### ⑧グルジア、第二のウクライナとなるか(2024年12月1日)

旧ソ連のグルジア(ジョージア)では親欧米派の若者らが「平和な」抗議活動を行い、EU 加盟交渉の開始を要求している。

与党「グルジアの夢」のコバヒゼ党首はウクライナで起きたクーデターの再発を防ぐとしているが、「平和に」抗議活動を行うグループは議事堂に火を放つなどして、混乱を引き起こしている。治安維持部隊は放水車などでデモ隊の侵入を防ごうとしている。

ズラビシビリ大統領は親欧米派を支持しており、国内の分断は限界に達している。

コバヒゼ首相はグルジアの EU 加盟交渉開始を 2028 年末まで議題にしないとしたほか、EU からの補助金受け取りも拒否すると表明し、親欧米派の間で激しい反発を集めている。

また、11 月に実施された議会選では与党が過半数を占めたが、野党は不正があったとして選挙のやり直しを訴えている。

<https://x.com/i/status/1863017544095068220>



[https://x.com/sputnik\\_jp/status/1863017544095068220?ref\\_src=twsrc%5Etfw%7Ctwcamp%5Etweetembed%7Ctwterm%5E1863017544095068220%7Ctwgr%5Ec468f07916e1f807eed1800b2eefa70235e15570%7Ctwcon%5Es1&ref\\_url=https%3A%2F%2Fsputniknews.jp%2F20241201%2F19370060.html](https://x.com/sputnik_jp/status/1863017544095068220?ref_src=twsrc%5Etfw%7Ctwcamp%5Etweetembed%7Ctwterm%5E1863017544095068220%7Ctwgr%5Ec468f07916e1f807eed1800b2eefa70235e15570%7Ctwcon%5Es1&ref_url=https%3A%2F%2Fsputniknews.jp%2F20241201%2F19370060.html)

## ⑨これはウクライナではなく米欧の戦争、正しい名で呼ぶべき = 南ア政治家(2024年11月30日)

英エコノミスト誌に「南アフリカで最も危険な人物」と称された政治家、ジュリアス・マレマ氏が、ロシアのプーチン大統領やウクライナ紛争について自身の見解を述べた。

マレマ氏は「プーチン大統領はロシアを守るべきであり、他に道はない」と述べ、ウクライナには現在使用している兵器を使う能力がないと指摘した。また、その兵器は米国製であり、それは米国がロシアに対して宣戦布告したことを意味すると主張した。

「ロシアはどう行動すべきか？ すべきことは国を守ることだ。これはウクライナの戦争ではない。米国の戦争だ。正しい名で呼ぼうではないか。これは欧州の戦争でもある。あたかもウクライナという国が存在し、その国に、自分らを通じて直接戦争を行う者らの支援を得ずに、ロシアの安定と平和を脅かす力があるかのような誤解を与えてはならない。西側は文化とマスメディアを通じて自分たちの影響を実現してきた。今はオルタナティブな情報のチャンネルがある。だから、メインストリームのメディアがどう言おうと、オルタナティブなメディアが正しいニュースを我々に報じてくれるため、批判にもとづいた分析ができ、より信憑性の高い説を選びとることができる」

マレマ氏はそうしたメディアの例として RT を挙げ、南アでは RT は一時放送禁止になったものの、ロシアのニュースへのアクセスを止めることは誰にもできなかったと指摘した。



[https://sputniknews.jp/20241130/19368858.html?rcmd\\_alg=collaboration2](https://sputniknews.jp/20241130/19368858.html?rcmd_alg=collaboration2)

## ⑩ポーランドで難民からなる「ウクライナ軍団」が結成、その実態とは(2024年11月30日)

ロシアを脅威とするポーランドは国内に滞在するウクライナ難民で部隊を結成し、訓練を施して前線に派遣しようとしている。

ただし、ウクライナのシビガ外相によると、現時点で「軍団」の登録者数は30人未満だという。ポーランドには97万人近くの難民が身を寄せているほか、多くの市民が国境を不法に超えて潜伏しているが、難民の士気は極めて低いようだ。

果たしてウクライナ人「が」戦いたいのだろうか……



<https://sputniknews.jp/20241130/19369453.html>